

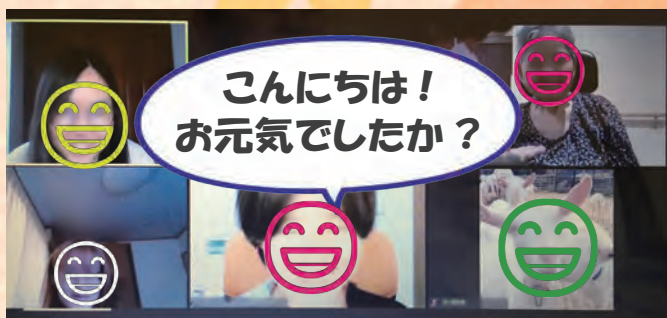
# KSK 湘南ふくしネットワーク オンブズマン(新聞) 広報68号

編集責任者: NPO 法人 湘南ふくしネットワークオンブズマン 相川 裕  
事務所: 〒253-0043 神奈川県茅ヶ崎市元町5-22 永井ビル3階  
電話・FAX: 0467-85-6660 直通電話 090-4937-4904  
ホームページ: <http://www.npo-snet.com> eメール: [info@npo-snet.com](mailto:info@npo-snet.com)



## お友達プロジェクト(意思決定支援関係性構築事業)について

津久井やまゆり園利用者対象に、芹が谷園舎で2019年より開始された、通称「お友達プロジェクト」も、いよいよ最終年度となりました。



【個人情報保護のため画像を加工しました】

この事業は、2016年7月に元職員が起こした津久井やまゆり園殺傷事件後、芹が谷園舎に仮住まいすることになった利用者の意思決定を支えるために考え出されました。今ではこの県委託事業を皮切りに、神奈川県下の他施設にも利用者に「お友達関係」を作る動きが展開されつつあります。

「お友達プロジェクト」は、私たちが物事を決めていく時に必要な「経験」や「人間関係」が乏しい利用者、新たな人とのつながり、しかも「対等で気軽な」関係性を作っていくことで、「親や職員には言えないんだけど」といった、利用者の本音を聞き、また対応するお友達も利用者さんから色々教えてもらうことができる事業です。

発語のない利用者さんであっても、その表情やしぐさ、ちょっとしたサイン等で、交流することが、双方にとっての楽しさにつながっています。

現在、東洋大学学生10名、社会人2名、田園調布大学学生6名が、津久井・芹が谷やまゆり園とカピーナ貴志園にお住まいの、計16名の知的障がいのある方々と交流しています。お一人の利用者(障がいのある方)に対してだいたい月に一度、2~4人くらいのお友達グループが、オンラインで30~50分程度のお喋りを楽しんでいます。コロナ感染が落ち着いてきた最近は、久しぶりに直接施設にお邪魔して、利用者さんにお会いするお友達も増えてきています。

今年度は、事業終了後を見据え、今後同じように施設利用者に「お友達」をつなげたい!と希望する事業所のために、事業開始の手がかりとなるマニュアルを作成することとなっています。





芹が谷・津久井やまゆり園利用者との交流グループは、現在5つ、カビーナ貴志園利用者との交流グループは1つあり利用者の年齢は20代から70代と幅広です。

対するお友達は、20代・30代ということで、ジェネレーションギャップを感じながらも、「今度、『暴れん坊将軍』、予習しておきますね!」等と、利用者に合わせて会話作りに努めています。

発語のない利用者も大勢いる中、音楽や手遊

び、オンライン上での画像共有等、様々な手法を用いた若いお友達の創意工夫には、目を見張るものがあります。

また、交流中にコックリコックリうたた寝をしている利用者さんもありました。感心したのは、そんな利用者さんに向かって、「ほら、お友達がお話していますよ!」と焦って起こそうとする付き添いの職員さんに対し、お友達から、「いいんです、私たちの中にも皆で喋ってる途中で寝ちゃう友だちがいますから。そのまま寝かせてあげてください。」と、友達としてごく自然な言葉が発せられたことです。「これは利用者のための事業かもしれないけど、『友達』なんだから特別扱いもしない」という、ある意味捉えどころのない「お友達」という関係性を、学生さんたちは見事に体現しています。やはり、若いからこそその柔軟な感性ですね!



「お友達事業」の昨年度までの実績は以下の通りです。

●利用者人数(申し込み数)

<2019年度>津久井やまゆり園(芹が谷園舎)利用者13名

<2020年度>津久井やまゆり園(芹が谷園舎)利用者17名

<2021年度>津久井・芹が谷やまゆり園利用者22名、貴志園利用者3名

●交流実施回数

<2019年度>見学・全体懇談5回、施設訪問30回(津久井やまゆり園芹が谷園舎)

<2020年度>オンライン交流43回、手紙のやりとり等16回( )

<2021年度>オンライン交流72回(津久井・芹が谷やまゆり園70回・貴志園2回)、手紙のやりとり等6回(津久井・芹が谷やまゆり園6回)

●お友達登録(申し込み数)

<2019年度>東洋大学学生等13名

<2020年度>東洋大学学生等13名

<2021年度>東洋大学学生等13名、田園調布大学学生7名

2022年度は9月15日時点で交流回数(オンライン)が40回を越えています。

年度末に向け、新たな「お友達」も徐々に増えつつあります。今後の事業展開が楽しみです。





## お友達プロジェクトで トーキングマットを 学びました！



お友達プロジェクトの「お友達」は、「支援者」ではありませんが、やはり障がいのある方の意思をしっかりと把握したい！そんな時、ちょっと知っておいた方が良いツールがあります。

その中のひとつがスコットランドで開発された、「トーキングマット」です。

7月17日(日)、東洋大学学生7名と社会人2名が、一般社団法人「日本意思決定支援ネットワーク(SDM-Japan)」の実施する、トーキングマット基礎研修を受講しました。

SDM-Japanは、障がいのあるなしにかかわらず、誰もが自信と誇りをもって、自分の思いを述べ、心からの希望に基づいて意思決定することができる社会を目指している組織です。

「トーキングマット」は、“揺れるところを見える化する”ことを目的に、カードのやりとりを通じて、その方の好きなことや嫌いなこと、その方にとって重要なことやそうでないこと等を引き出すことができます。具体的には、「いえのそと」「けんこう」等といった「トピック(テーマ)」を決めて、「聞き手」が「考える人」に様々なカードを渡し、例えば「好き」「普通」「嫌い」といった「スケール(尺度)」ごとにそのカードを置いてもらうといった手順で行います。

実際に、研修後に障がいのある方に「トーキングマット」を行ったSネットスタッフからは、「あまり喋らない物静かな方が、実は、人ともっと話をしたい、といったお気持ちがあることがわかった」との報告がありました。

以下が受講学生等からの感想です。



- 実際に体験しながら研修を行うことができたので、とてもわかりやすかったです。互いに褒め合いながら進められて楽しい気持ちでした。
- 普段関わっている利用者さんとのコミュニケーション手段として活用してみたいです。障がいのある方を深く知る機会になると思います。
- 今までのコミュニケーションでの反省や今後の関係構築に置いて気をつけたいことを意識することが出来ました。実践を交えた学びがあり、主観での立場、客観としての立場等、様々な経験できたため、とても面白かったです。現在関わっている障がいのある方や、友達・家族とも行い、お互いに理解を深めたいです。

障がいのある方の思いを知るための有効なツールとして、今後もトーキングマットを活用していきたいと思います。

(上杉 桂子)

『トーキングマット』は一般社団法人日本意思決定支援ネットワークの登録商標です



# 障がいのある方の友達になってみませんか？

あなたも



新型コロナウイルス感染拡大により、人とのつながりが制限されている現在。「どこにも行けない」と、窮屈な思いをされていた方も多いのではないのでしょうか。でも皆さんは、ずっと以前から、「入所施設」という場所で、何年何十年の間、自分の行きたい時に外出もできず、あまり変化のない暮らしをしている方たちのことをご存じでしょうか？また「入所施設」以外の地域にも、自宅やグループホームなどで暮らす、あるいは一人暮らしをしている障がいのある方がたくさんおられますが、多くの場合、変化の乏しい日々を淡々と過ごしていることが多いようです。

この方々には、家族や教員・職員といった人たちとの関係だけしかないことが多く、友達として対等におつきあひする相手やそうした人たちとの出会いの場がごく僅かであることもわかってきました。またコミュニケーションの機会が少なく、私たちが普段当たり前のように享受している、生活の潤いや楽しい時間を持つことが極めて少ないのです。

現在、「お友達プロジェクト」の中で学生さんと仲良くなった障がいのある方は、「楽しい」を満面の笑顔で伝えてくれています。しかし、こうした事業でなくても、障がいのある方には、まだまだたくさんの「お友達」が必要です。「支援者」とはちょっと違う、「普通のお友達」。あなたもそうした「お友達」の一人になってみませんか？

## 賛助会員 入会のお願い

私たちは、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、権利擁護活動を行っています。賛助会員としてご入会いただき、私たちの活動をご支援くださいますようお願い申し上げます。

- ◇賛助会員 ・個人 年額 一〇 1,000円（一〇以上）
- ・法人 年額 一〇 5,000円（一〇以上）

◇ご入会の方法： 郵便為替書により下記口座へ会費をお振込みください

郵便振替口座番号： 00210-9-75496

口座名義人： NPO 法人 S ネットオンブズマン

【発行：2022年10月】

